

ネパールの床屋

特定非営利活動法人ミランクラブジャパン
理事長 マナダール マダーブ ナラエン

私はネパールへ帰国する際は必ずと言っていいほど散髪のため床屋へ行きます。その理由は安くて、いろいろ注文でき、マッサージもしてくれるからです。店により差はありますが、散髪代は 50 牒、髭を剃って 30 牒と日本では信じられない安さです。インド人経営の店だけになりますが、散髪後には頭から肩にかけてと腕から手の先にかけてと 5 分前後もマッサージをしてくれます。このサービスには日本ではお目にかかれません。



町の床屋

店舗を構えている床屋は、壁中にイケメンモデルのヘアスタイルを貼り、カットすると同じようになるよと言わんばかりにお客を魅了しています。

日本では見ない露天での床屋は、インドからの出稼ぎが殆どで、許可も要らないため道端や寺院周辺の空きスペース、巡礼者が休憩する屋根が付いているパティという場所等で営業しています。ネパール・インド間で双方の住民はパスポートもビザもなく移動でき、商売もできるので、商売上手なインド人は露天商で儲け、小さな店を持ち、店を大きくしていき、インドから親戚を呼び、ますます商売を広げていきます。そもそもインド人床屋が増えた理由としては、ネパールでは昔から床屋職は低い地位に見られていて、ある時期までは代々

引き継がれてきたものの、教育を受けた後継者たちから敬遠され始めての後継者不足によるものでした。



青空床屋

今でこそ女性用の美容院はありますが、昔の女性は髪を切らず、切ったとしてもほんの数ミリか数センチなので、女性同士で切ったりしていて、美容院は必要ありませんでした。長い髪を大切に守り、梳かし合っていました。ネパールでは美容院をパーラーとかビューティーサロン、ヘアサロンと呼んでいます。昔と違い今は外国からの影響もあり服装に合わせ髪形を変えたり染めたりしています。そもそもネパールでは結婚の際、手足にヘナという植物から採った染料で模様を描く習慣があり、染髪には抵抗がありません。健康に害がないため多くの女性がヘナでお洒落を楽しんでいて、最近では外国にも輸出するようになってきています。

床屋は朝 8 時頃から夜遅く 9 時頃まで営業しています。出勤前の髭そりだけで訪れる人もいるため、朝方の床屋は混んでいることが多いです。美容院は 10 時から 5 時頃までが殆どです。ネパールでは髪を切ってはいけない曜日があり、その日を定休日に行っている店もあります。

床屋は人生の節目節目で必要とされます。次号で代表的なものを紹介します。